

## 陰陽道 セーまんどーまん展

～日本現代美術に流れる伏流水～

明治以降の日本における近現代美術は、西欧モダニズムに平行したのとして見られてきたかもしれません。確かに、絵画の技法や様式などにより、西欧美術の文脈の中に埋没して見られる作品も少なくありません。西欧のアイデンティティーを持たない私たち日本人にとって、そうした西欧由来の芸術作品を鑑賞するには困難が伴います。しかし、それらの絵を描いたのは、立派な日本のアイデンティティーを持った紛れもない日本人。したがって、描かれた作品の内部には、日本のアイデンティティーが伏流水として流れているはずで、その伏流水が見つければ、私たちも奥深く現代美術を鑑賞できるのでは・・・。

これからその謎解きの旅に出ます。場所は陰陽道の社です。陰陽道は1500年にわたり、呪術、科学を表裏一体として、わが国の政治、宗教、文化に多大な影響をもたらしてきたとともに、様々な形で朝廷から一般庶民に至る日本人の日常生活にも大きな影響を与えてきました。つまり、陰陽道は昔の日本人のアイデンティティーの強力な支柱の一つだったわけです。しかし、明治維新による国家近代化の政策により、日本の近現代美術が幕開けられる一方で、陰陽道は迷信の類として否定され忘却されてゆきました。

ところで陰陽道は本当に忘却されてしまったのでしょうか？皆さん、無意識に家相や方位を気にしていませんか？陰陽道の思想は、現代社会でも無意識の習慣として我々日本人の行動様式の中に伏流水として流れているのではないのでしょうか。本展では、わが国の近代化により生まれ、かたや消滅していった日本近現代美術と陰陽道をテーマとし、日本のアイデンティティーを再考しようという試みです。陰陽道という不可視のアイデンティティーは、可視芸術であるアート作品を識(式)神として活用することで浮かび上がってきます。また、本展に出展される美術作品は、当館コレクションより珠玉の名作を選び出しました。これまでの現代美術鑑賞とは異なる、新しい美術へのアプローチをお楽しみいただくとともに、日本近現代美術の素晴らしさをお楽しみいただけましたら幸いです。

フォーエバー現代美術館  
チーフキュレーター 加藤 淳